

農商工連携による「最北のさつまいも」

～色素抽出用さつまいもの安定生産に向けて～ [広域・高付加価値化]

1 背景

●平成29年度より遠別町の色素加工メーカーである鹿遠産業株式会社と地元農業法人緑進との「色素抽出用紫さつまいも」の栽培を始めた。

寒冷地での栽培で生産が不安定なことから、試験研究機関等と連携し「安定生産に向けた技術確立」に取り組んだ。

●苗は本州からの購入苗が大半を占めているが、近年、病害の発生により本州からの苗の供給が難しくなった。

そこで、適期植え付けや苗供給に係るリスク分散のため、自家採苗の取組を開始した。

北海道におけるさつまいも栽培の特徴

- ① 害虫が少なく、防除をほとんど必要としない
- ② 乾物率・でん粉含量が低い
- ③ 糖含量が高く、食感は粘質になりやすい
- ④ アントシアニン、ポリフェノール含量が高い

2 取り組み

～採苗技術の向上支援を行った～

これまでの技術の再確認と見直し

(1) 種いもの萌芽前の栽培管理

- ◇種いもの萌芽前の温度管理
- ◇かん水のタイミング・量

苗床の温度をあげて(30℃目安)
過湿にならないように管理

視察研修にて、関係機関と共に種いもの栽培管理
技術を学ぶ場づくりを支援 ← 基本技術を確認!!

- ◇試験研究機関：北海道におけるさつまいも栽培の特徴や育種品種について
- ◇現地事例調査：種いもの伏せこみ時のポイント
→萌芽前の温度管理(30℃以上保持)
萌芽するまで「かん水」しない

(2) 機械植えに適した苗の検討

農業法人の植え付け担当者より、聞き取りを行い、機械植えに適した苗の目安を検討した。

(3) 種いものキュアリングおよび保管庫の整備

収穫後の速やかなキュアリング作業の実施の必要性和保管庫の適正な温度・湿度について情報提供を行った。



色素抽出会社での採苗作業
(令和4年6月16日)



十勝管内視察研修
(令和4年7月6～7日)

栽培技術の情報提供
や今後の課題を共有



関係機関との意見交換会
(令和4年10月19日)

3 成果

(1) 採苗技術の改善により「アケムラサキ」5,749本、「むらさきほまれ」110本が自家採苗できた！



令和3年は種いもは腐敗により全滅状態
自家採苗は、ほとんど
できなかった



4月上旬に伏せこみ、
5月上旬から順次、萌芽



5月26日～6月28日までの
約1ヶ月にわたって採苗

(2) 機械植えに適した苗の目安がわかった！

【採苗の目安】
長さ：
25～30cm
節数：
6～7節



機械移植には
真っ直ぐな苗
が適している。

機械移植には
不向き。
補植用にはOK。



切り分けた茎葉の
下部は苗として
できれば使わない。

(3) 種いもの保管庫の整備ができた！



種いも貯蔵庫



本年は収穫後、すみやかにキュアリングを
実施し、温度：13℃程度、湿度：90～95%を
保持できる種いも保管庫を整備。

4 今後の対応

紫さつまいもの安定生産のためには、病害対策、健全な種苗確保のための採苗技術（自家採苗のみでの植え付け）について支援が必要となる。

今後は、採苗および病害対策に向けた種いも管理の栽培技術の確立に取り組む。